

## 第4B（中）分科会 —組織・運営に関する課題—

提案主題 学力向上にむけて組織的に取り組む学校づくりの推進  
～豊かな同僚性をもった協同する教職員集団づくり及び運営を通して～

司会者	中津市立三光学校	芦江 誠 二
提言者	中津市立本耶馬溪中学校	香下 仁 志
助言者	中津市立緑ヶ丘中学校校長	古口 宜 久
記録者	中津市立山国中学校	相良 友 一

### 1 討議の柱

- ・学力向上に組織的に取り組む学校づくりの推進に向けて教頭としてどのように取り組むか

### 2 協議の実際

#### ○学力向上について

- ・定期テスト及び各学力調査の分析結果を目標設定に生かし、学期ごとのP D C Aサイクルで検証していく。また、そのための担当者の決定と日程の管理を工夫している。
- ・4点セットと各教職員の目標管理が連動するための手立てを講じている。
- ・放課後学習や家庭学習では個人ファイルを作成し個に応じた指導支援に取り組んでいる。
- ・家庭学習の課題の量や内容、提出状況を担任（学年部）と教科担当とで理解連携し学校全体で組織的効果的に取り組みを進めている。
- ・各種学力調査の分析結果を教務主任や研究主任がとりまとめ、校内研とも連動させている。
- ・習熟の程度に応じた指導は年間計画の中で効果的な活用の場を位置づけ検証していく。

#### ○組織運営について

- ・学級担任としてや教科担当としての役割と責任を全体で共有し組織的に取り組むことで活性化する。
- ・教頭と教務主任の仕事分担を整理し、教務主任が活躍する場を具体的に設定する。
- ・運営計画や日程管理計画を作成することで見通しを持った組織的な人材育成を推進する。
- ・運営委員会の内容を一人ひとりの教職員に周知するための工夫を行う。

### 3 指導助言

- ・教務主任が学校経営を意識して重点目標と分掌目標との関連を整理しまとめている。
- ・教務主任の負担が大きいため、校長・教頭は問題点を共有し取組状況を把握し調整していくことが大切になってくる。
- ・子どもたちのためにやろうという“やりがい”を学校全体で引き出している。
- ・本耶馬溪中学校は11年前より授業改善を軸にした荒れた学校の改革に取り組んできた。  
☆小学校中学校間で授業を見合い改善し合う小中連携の推進  
☆先進地（学び合いのある授業や授業改革により学校改革を進めた学校）を視察し、その取組の推進  
☆成果として、学校が落ち着き欠席が0になる・活用力が定着する・家庭的に厳しい状況の生徒の居場所づくりなどが挙げられる。